

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学  
経営協議会（令和4年度第1回）議事要旨

1. 日時 令和4年6月7日（火）13:00～14:56
2. 場所 事務局3階会議室、オンライン会議
3. 出席者(参集) 塩崎議長  
小笠原、太田、小谷、野口、山本の各学内委員  
小山、田中の各学外委員  
(Webex) 土井学内委員  
後藤、手代木、板東、ベントンの各学外委員  
欠席者 藤沢、宮原の各学外委員  
出席監事(参集) 西村、春本の各監事  
陪席者(参集) 松山、高橋の各部長  
蜂谷、久保の各課長  
(Webex) 筒井、森、田中、竹河、川村、山口の各課長
4. 配付資料  
資料1 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学経営協議会（令和3年度第6回）議事要旨（案）  
資料2 学長選考・監察会議委員の選出について  
資料3-1 第3期中期目標期間終了時評価について  
資料3-2 第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書（案）の概要  
資料3-3 第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書（案）  
資料3-4 中期目標の達成状況報告書（案）の概要  
資料3-5 中期目標の達成状況報告書（第3期中期目標期間終了時）（案）  
資料4-1 第4期中期目標・中期計画における意欲的な評価指標の指定について  
資料4-2 意欲的な評価指標に関する調書（案）  
資料5 令和3事業年度決算  
資料6-1 令和5年度予算に係る運営費交付金概算要求について  
資料6-2 令和5年度施設整備費等概算要求事業（案）  
資料7 目的積立金の施設計画について  
資料8 令和4年度国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学 運営体制  
資料9 本学の主な動き（令和4年3月～令和4年6月）  
資料10 国立大学法人における会計監査人の選任について（通知）  
資料11 令和4年度外部資金の受入れについて  
資料12 令和3年度実施大学機関別認証評価 評価結果について
5. 議事  
(前回議事要旨の確認)  
資料1の令和3年度第6回の議事要旨（案）について、原案のとおり承認した。

(審議事項)

(1) 学長選考・監察会議委員の選出について

議長から、資料2に基づき、経営協議会学外委員のうちから選出する学長選考・監察会議委員について説明があり、審議の結果、5名を選出した。

(2) 第3期中期目標期間終了時評価に係る報告書(案)について

太田理事から、資料3-1~5に基づき、第3期中期目標期間終了時評価に係る報告書(案)について説明があり、審議の結果、今後の修正等については学長に一任することとした上で、原案のとおり承認した。

(主な意見等は、以下のとおり)

・コロナ禍におけるグローバル化について、通常期の海外交流に代わるアイデアはあるのか。

→基本的にオンラインで大学などと交流を行っているが、オンラインによるメリットも出てきた。オンラインによって学長を中心に執行部同士での交流ができるようになった。また、オンラインによる学生募集説明会を開催することにより、海外から気軽に参加することができるようになった。

・学生の英語力向上の対策として、インセンティブを含めたような抜本的なものはあるのか。

→海外の研究室訪問やラボステイなどを積極的に取り入れて、英語力向上に努めたい。

・この2年間、海外にほとんど行くことができなかったが、今後、留学や共同研究について、プランはあるのか。

→学生のラボステイについては、協定校に限定しているが、募集を始めているところである。また、教員側の国際会議あるいは共同研究等による海外出張も、これから順次、行っていくことになる。

・最先端の研究力をもつ大学院大学として、研究・産官学連携・地域共創・管理運営・組織体制・財務などの学校経営については、学長のリーダーシップのもとに戦略的に進められており、順調に推移していると考え。一方で、貴学のディプロマポリシーに沿った教育展開、並びにその達成のための入学生確保や修了生の進路実績など、入学から修了までの学生の姿や教育成果が見えにくいと感じる。例えばグローバルリーダー育成は、コロナ禍の影響で困難があったと思うが、このような先導的人材に必要な資質は英語力の獲得だけではないと考える。(会議終了後にメールでいただいた意見)

(3) 第4期中期目標・中期計画における意欲的な評価指標の指定について

太田理事から、資料4-1~2に基づき、第4期中期目標・中期計画における意欲的な評価指標の指定について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

(4) 令和3年度決算について

小谷理事から、資料5に基づき、令和3年度決算について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

(5) 目的積立金の施設計画について

小谷理事から、資料7に基づき、目的積立金の施設計画について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

(主な意見等は、以下のとおり)

・エレベーター、エアコンやトイレなどといった施設改修の問題は、国立大学全体として議論すべきことであり、運営費交付金で補填されるべき設備である。運営費交付金で賄えるように、国へ強く働きかけるべきである。

(6) 令和5年度概算要求について

小谷理事から、資料6-1~2に基づき、令和5年度概算要求について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

(主な意見等は、以下のとおり)

・データ駆動型サイエンス創造センターは、今まで実務家教員や、社会実装に関係するような専門家は入っていなかったのか。

→ものを創っていく中で、設計・合成・計測という三つの重要な要素があり、設計と合成に関しては人を配置している。計測に通じた人が必要だということが分かってきたが、計測した結果から重要な情報を取り出すためには、設計や材料にも通じている必要がある。今回、リサーチトランスフォーメーションに対応した社会実装という、研究のやり方を変えていく中で社会実装をしていきたいというところに力点を置いており、データ駆動型サイエンスの研究成果を新産業の創出に発展させ、全体を見回すことのでき、社会実装が可能なエキスパートを一人、ここで配置したいというのが大きな狙いである。

(報告事項)

(1) 令和4年度運営体制等について

議長から、資料8に基づき、令和4年度運営体制等について、報告があった。

(2) 本学の主な動きについて (令和4年3月~令和4年6月)

議長から、資料9に基づき、令和4年3月から令和4年6月までの本学の主な動きについて、報告があった。

(3) 令和4年度会計監査人の選任について

小谷理事から、資料10に基づき、令和4年度会計監査人の選任について、報告があった。

(4) 令和4年度外部資金の受入れについて

太田理事から、資料11に基づき、令和4年度外部資金の受入れについて、報告があった。

(主な意見等は、以下のとおり)

・欧米では、日本と共同研究を積極的に行いたい機関が多く、今後の海外との共同研究や

受託研究の戦略はあるのか。

→一部の教員が海外と一緒に共同研究等を行っているということは聞いている。海外との共同研究により、共著論文等も増えるし、共同研究の成果はインパクトが非常に高い場合があるので、大学としても積極的にサポートをしていきたい。

(その他)

(1) 令和3年度実施大学機関別認証評価 評価結果について

太田理事から、資料12に基づき、令和3年度実施大学機関別認証評価 評価結果について報告があった。

以 上